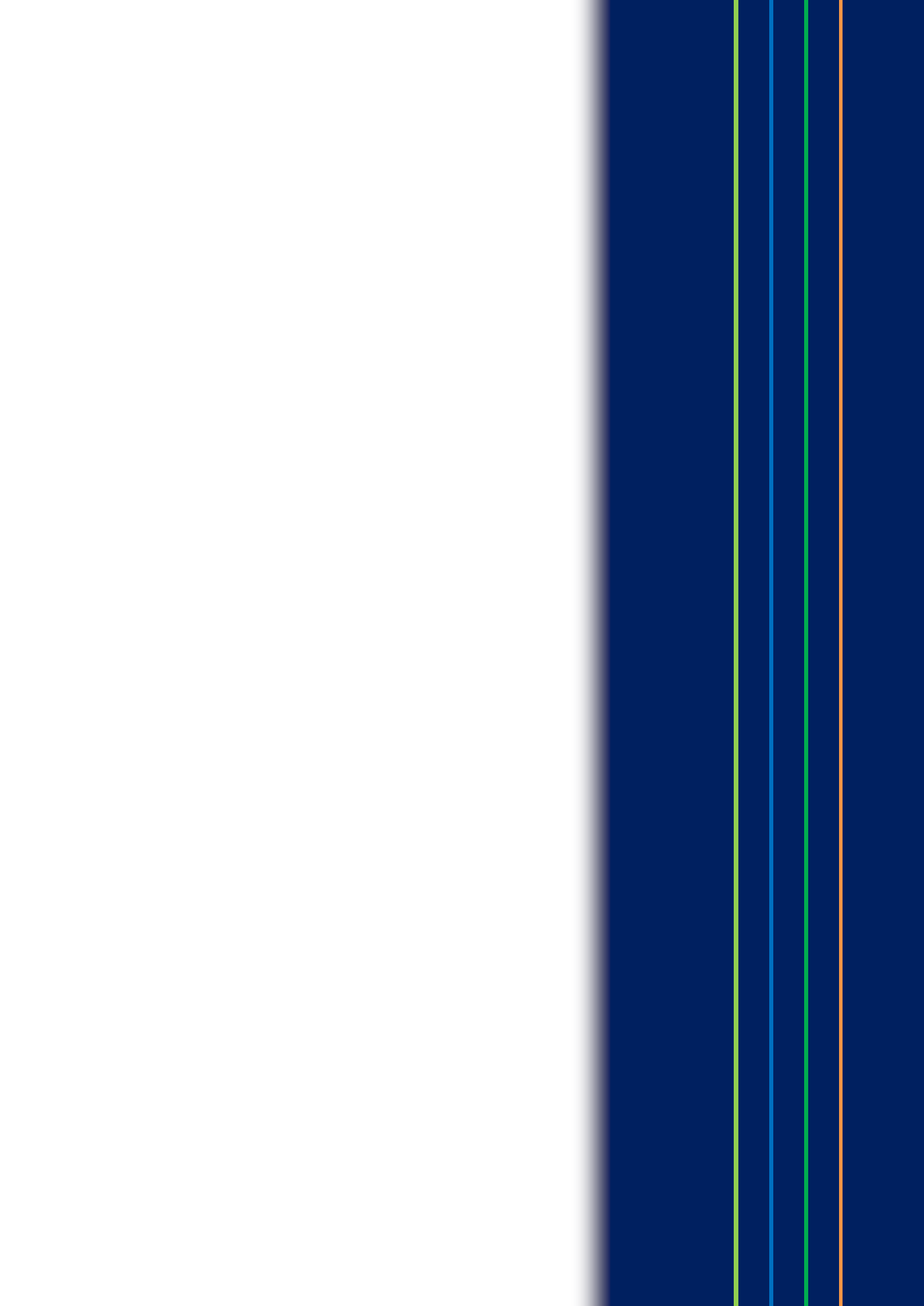


# 現代工芸四国会の五十年

現代工芸美術家協会四国会



# 現代工芸四国会の五十年

現代工芸美術家協会四国会



## ごあいさつ

現代工芸美術家協会四国会会長 石川 充 宏

昨年、社団法人現代工芸美術家協会が発足して半世紀が経ちました。

私たちの現代工芸美術家協会四国会も同じ年に発足し、毎年開催してまいりました現代工芸美術家協会四国会展が、今年50回を迎えることになりました。この節目に「現代工芸四国会の五十年」を刊行する運びとなりました。

現代工芸美術家協会四国会（発足当時は香川会）は鴨政雄、明石朴景の両先生を中心にして誕生いたしました。発足した当時は、20人足らずの香川県のみ会員でしたが、やがて愛媛の砥部焼陶芸作家が参加することになり、高知、徳島と徐々に会員を増やし、最盛期には60人近い会員数となりました。

今日まで、会員は日本現代工芸美術展や日展、県展などで数々の斬新な作品を生み出し、入賞や入選の実績を積み重ね、またこれらの展覧会の審査員を度々務めるなど、多くの有能な作家を輩出して、現代工芸四国会の存在感を大いに高めることになりました。これも偏に、関係者皆様のご支援の賜と深く感謝致しております。

私たちは、常に新たな気持ちで斬新な造形を心掛けて、次の世紀に向かって歩む決意であります。現代の工芸美を求めていくことは、すなわち豊かな感性を培いながら、工芸技術を駆使して、知性的で個性的な創造性あふれるもの創りをしていく必要があると常々感じております。

今後共私たちの現代工芸の活動をご理解いただき、温かく見守っていただきながらご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 現代工芸四国会のあゆみ

- 1961年（昭36）6. 4  
現代工芸美術家協会が設立。創立総会。
- 1961年（昭36）8. 22  
在京常任委員会で役員が決定し、鴨政雄氏が常任委員、大西忠夫氏が委員となる。  
現代工芸美術家協会香川会が発足。委員長は鴨政雄氏。
- 1961年（昭36）11  
第1回現代工芸美術家協会香川会展  
（三越高松店6階催し物会場。以降毎年開催）
- 1964年（昭39）5. 22～5. 31  
高松市立美術館で第3回日本現代工芸美術展を開催。
- 1968年（昭43）6. 19～6. 30  
第7回日本現代工芸美術展香川展（香川県文化会館）
- 1968年（昭43）11. 9～11. 14  
第7回現代工芸美術家協会香川会展（三越高松店）
- 1969年（昭44）5. 18～5. 25  
第8回日本現代工芸美術展香川展（香川県文化会館）
- 1970年（昭45）6. 20～7. 5  
第9回日本現代工芸美術展香川展（香川県文化会館）
- 1970年（昭45）11. 14～11. 19  
第9回現代工芸美術家協会香川会展（三越高松店）
- 1971年（昭46）6. 26～7. 11  
第10回日本現代工芸美術展香川展（香川県文化会館）
- 1971年（昭46）11. 6～11. 11  
第10回現代工芸美術家協会香川会展（三越高松店）
- 1972年（昭47）7. 1  
現代工芸香川会委員長に明石朴景氏を選出
- 1972年（昭47）7. 1～7. 16  
第11回日本現代工芸美術展香川展（香川県文化会館）
- 1973年（昭48）7. 7～7. 22  
第12回日本現代工芸美術展香川展（香川県文化会館）
- 1973年（昭48）10. 29～11. 4  
第12回現代工芸美術家協会香川会展（三越高松店）
- 1974年（昭49）7. 6～7. 21  
第13回日本現代工芸美術展香川展（香川県文化会館）
- 1974年（昭49）10  
第13回現代工芸美術家協会香川会展（三越高松店）
- 1975年（昭50）2. 11～2. 16  
第14回現代工芸美術家協会香川会展（三越高松店）



第22回日本現代工芸美術展高松展



第25回日本現代工芸美術展高松展（香川県文化会館）



第26回日本現代工芸美術展高松展  
（高橋節郎協会副会長 香川県文化会館）

- 1975年(昭50)7.12~7.27  
第14回日本現代工芸美術展香川展(香川県文化会館)
- 1976年(昭51)2.10~2.15  
第15回現代工芸美術家協会香川会展(三越高松店)
- 1976年(昭51)5.27~6.13  
第15回日本現代工芸美術展香川展(香川県文化会館)
- 1977年(昭52)2.8~2.13  
第16回現代工芸美術家協会香川会展(三越高松店)
- 1977年(昭52)7.9~7.24  
第16回日本現代工芸美術展香川展(香川県文化会館)
- 1978年(昭53)2.7~2.12  
第17回現代工芸美術家協会香川会展(三越高松店)
- 1978年(昭53)5.3~5.14  
第17回日本現代工芸美術展香川展(香川県文化会館)
- 1979年(昭54)4.18~4.25  
第18回日本現代工芸美術展香川展(香川県文化会館)
- 1979年(昭54)7.3~7.8  
第18回現代工芸美術家協会香川会展(三越高松店)
- 1980年(昭55)4.26~5.5  
第19回日本現代工芸美術展香川展(香川県文化会館)
- 1980年(昭55)7.1  
現代工芸香川会が四国会に名称変更し、鴨政雄氏を  
会長に選出
- 1980年(昭55)7  
第19回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1981年(昭56)7  
第20回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1981年(昭56)10.1~10.10  
第20回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 1982年(昭57)8.21~9.5  
第21回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 1982年(昭57)8.31~9.5  
第21回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1983年(昭58)5.13~5.29  
第22回日本現代工芸美術展愛媛展(愛媛県立美術館)
- 1983年(昭58)8  
第22回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1983年(昭58)10.29~11.13  
第22回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 1984年(昭59)5.3~5.20  
第23回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)



第30回記念日本現代工芸美術展高松展



第32回日本現代工芸美術展高松展前夜祭  
(中井貞次常務理事 川六)



第40回記念日本現代工芸美術展高松展前夜祭  
(大塩正義常務理事 川六)

- 1984年(昭59)12.4~12.9  
第23回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1985年(昭60)4.20~5.6  
第24回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 1985年(昭60)12  
第24回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1986年(昭61)5.3~5.11  
第25回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 1987年(昭62)1.6~1.11  
第25回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1987年(昭62)5.2~5.20  
第26回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 1988年(昭63)1.5~1.10  
第26回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1988年(昭63)4.29~5.8  
第27回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 1989年(平元)1.3~1.8  
第27回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1989年(平元)5.5~5.14  
第28回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 1990年(平2)1.3~1.8  
第28回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1990年(平2)5.19~6.3  
第29回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 1991年(平3)5.25~6.9  
第30回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 1991年(平3)5.28~6.2  
第29回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1991年(平3)8.1~8.19、  
30周年記念現代工芸美術家協会四国会高知大丸展  
(高知大丸5階美術画廊)
- 1992年(平4)5.23~6.7  
第31回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 1992年(平4)12.1~12.6  
第30回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1993年(平5)5.22~6.6  
第32回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 1993年(平5)11.30~12.6  
第31回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 1994年(平6)5.21~6.5  
第33回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)



第41回日本現代工芸美術展高松展



第45回記念日本現代工芸美術展高知展  
(かるぽーと市民ギャラリー)



第46回日本現代工芸美術展愛媛展トークショー  
(奥田副理事長、石川会長、本浄副館長 ミラト・ヴァイツァ)

1994年(平6)11.29~12.5  
 第32回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)

1995年(平7)5.20~6.4  
 第34回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)

1995年(平7)12.12~12.18  
 第33回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)

1996年(平8)5.25~6.9  
 第35回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)

1996年(平8)12.3~12.9  
 第34回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)

1997年(平9)4.13  
 鴨政雄会長が退任し、新会長に向井一郎氏を選出

1997年(平9)5.16~5.25  
 第36回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)

1997年(平9)12.2~12.8  
 第35回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)

1998年(平10)4.29~5.5  
 第37回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)

1998年(平10)12.1~12.7  
 第36回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)

1999年(平11)4.29~5.5  
 第38回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)

2000年(平12)1.18~1.24  
 第37回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)

2000年(平12)4.26~5.7  
 第39回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)

2000年(平12)6.10~6.11  
 近畿・中国・四国合同研修会  
 (イサム・ノグチ庭園美術館等見学)

2000年(平12)12.5~12.11  
 第38回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)

2001年(平13)4.25~5.6  
 第40回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)

2001年(平13)12.4~12.10  
 第39回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)

2002年(平14)9.5~9.16  
 第41回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)

2002年(平14)12.3~12.9  
 第40回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)

2003年(平15)9.4~9.15  
 第42回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)



第47回日本現代工芸美術展徳島展トークショー  
 (大樋年朗理事長 徳島県郷土文化会館)



第48回日本現代工芸美術展懇親会(東京会館)



第47回現代工芸四国会展(高松三越)



第49回日本現代工芸美術展懇親会(東京会館)



- 2003年(平15) 12. 2~12. 8  
 第41回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 2004年(平16) 9. 9~9. 20  
 第43回日本現代工芸美術展高松展(香川県文化会館)
- 2004年(平16) 12. 7~12. 13  
 第42回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 2005年(平17) 7. 26  
 第44回日本現代工芸美術展高松展が会場予定の香川県文化会館のアスベスト問題で中止となる。
- 2005年(平17) 12. 6~12. 12  
 第43回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 2006年(平18) 7. 29  
 四国会臨時総会で石川充宏副会長を会長に選出。向井一郎氏は顧問となる。
- 2006年(平18) 11. 28~12. 4  
 第44回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 2006年(平18) 8. 19~8. 27  
 第45回記念日本現代工芸美術展高知展(高知市文化プラザ かるぽーと市民ギャラリー)
- 2007年(平19) 9. 15~10. 5  
 第46回日本現代工芸美術展愛媛展(ミウラート・ヴィレッジ)
- 2007年(平19) 12. 4~12. 10  
 第45回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 2008年(平20) 8. 1~8. 10  
 第47回日本現代工芸美術展徳島展(徳島県郷土文化会館)
- 2008年(平20) 12. 2~12. 8  
 第46回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 2009年(平21) 9. 12~9. 20  
 第48回日本現代工芸美術展高松展(高松市美術館)
- 2009年(平21) 12. 1~12. 7  
 第47回現代工芸美術家協会四国会展(三越高松店)
- 2010年(平22) 11. 30~12. 6  
 第48回現代工芸美術家協会四国会展(高松三越)
- 2011年(平23) 8. 27~9. 4  
 第50回記念日本現代工芸美術展高知展(高知市文化プラザ かるぽーと市民ギャラリー)
- 2011年(平23) 11. 29~12. 5  
 第49回現代工芸美術家協会四国会展(高松三越)
- 2012年(平24) 11. 27~12. 3  
 第50回現代工芸美術家協会四国会展(高松三越)



第50回記念日本現代工芸美術展高知展



第50回記念日本現代工芸美術展高知展  
(かるぽーと市民ギャラリー)



第49回現代工芸四国会展(高松三越)

新聞記事

(日本現代工芸美術展巡回展関連)

四国新聞 2009年9月14日付

四国新聞 1982年8月30日付



高知新聞  
2011年8月27日付



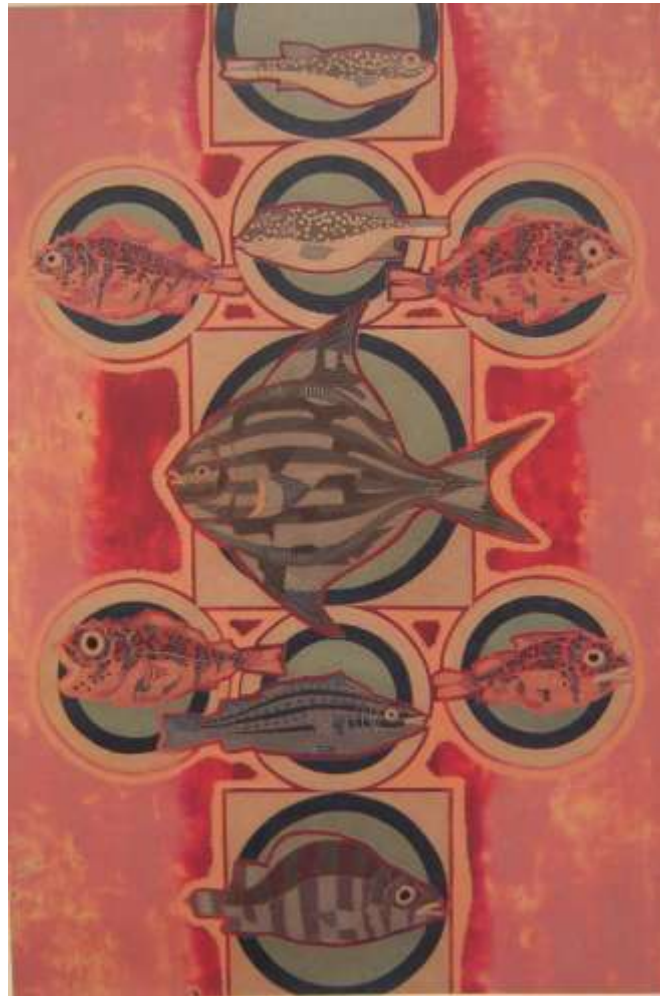
現代工芸四国会の指導者 鴨 政雄 (1961~1972 現代工芸香川会委員長、  
1980~1997 現代工芸四国会会長)



彫金花瓶“蝶と花”（第24回日本現代工芸美術展文部大臣賞）

- 1906年（明39）香川県高松市に生まれる
- 1930年（昭5）東京美術学校金工科彫金部卒業、帝展初入選
- 1952年（昭27）日展特選・朝倉賞受賞
- 1958年（昭33）日展常任委員を委嘱される
- 1959年（昭34）第2回新日展で会員となる
- 1960年（昭35）第3回新日展で審査員を務める
- 1961年（昭36）現代工芸美術家協会が結成され、常任委員となる
- 1965年（昭40）現代工芸美術家協会評議員
- 1968年（昭43）第11回新日展の審査員を務める
- 1969年（昭44）明善短期大学教授（～1998年）
- 1973年（昭48）香川県文化功労者として顕彰される
- 1978年（昭53）文化庁創設10周年記念文化功労の表彰を受ける
- 1980年（昭55）現代工芸香川会が四国会となり、四国会会長となる
- 1986年（昭61）現代工芸美術家協会参事となる
- 1994年（平6）香川県文化会館で鴨政雄展開催
- 1997年（平9）現代工芸四国会名誉会長
- 2000年（平12）高松三越で鴨政雄展、12月6日逝去

現代工芸四国会の指導者 明石朴景 (1972~1980 現代工芸香川会委員長)



瀬戸魚曼荼羅 (第30回記念日本現代工芸美術展文部大臣賞)

- 1911年 (明44) 香川県高松市に生まれる
- 1934年 (昭9) 東京美術学校図案科卒業
- 1958年 (昭33) 第1回新日展で特選
- 1966年 (昭41) 第9回日展審査員
- 1969年 (昭44) 高松短期大学児童教育学科教授
- 1972年 (昭47) 香川県美術家協会会長 現代工芸香川会委員長
- 1974年 (昭49) 香川県文化功労者の表彰を受ける
- 1975年 (昭50) 改組第7回日展審査員
- 1978年 (昭53) 現代工芸美術家協会理事
- 1982年 (昭57) 現代工芸美術家協会参事
- 1983年 (昭58) 現代工芸美術家協会参与
- 1984年 (昭59) 文部大臣より地域文化功労者表彰を受ける
- 1986年 (昭61) 日本漆工協会より漆工功労者表彰を受ける
- 1987年 (昭62) 第19回日展で日展会員賞を受賞
- 1989年 (平元) 高松短期大学名誉教授 香川県美術家協会名誉会長
- 1992年 (平4) 2月10日逝去、高松市美術館で明石朴景回顧展開催

現代工芸四国会の指導者 向井一郎 (1997~2006 現代工芸四国会会長)



三世流動 (第25回日本現代工芸美術展NHK会長賞)

- 1941年 (昭16) 香川県香川町に生まれる
- 1961年 (昭36) 香川県立高松工芸高校漆芸科卒業、明石朴景氏に師事
- 1968年 (昭43) 香川県展知事賞
- 1981年 (昭56) 第20回日本現代工芸美術展現代工芸会員賞
- 1985年 (昭60) 第24回日本現代工芸美術展審査員 ('89,'91,'93,'96,'00)
- 1986年 (昭61) 第25回日本現代工芸美術展NHK会長賞
- 1988年 (昭63) 現代工芸美術家協会理事
- 1989年 (平元) 第21回日展特選
- 1991年 (平3) 第23回日展特選
- 1997年 (平9) 現代工芸四国会会長
- 1998年 (平10) 四国新聞文化賞受賞
- 1999年 (平11) 第31回日展審査員
- 2002年 (平14) 現代工芸美術家協会参事
- 2006年 (平18) 現代工芸四国会顧問
- 2007年 (平19) 現代工芸美術家協会と現代工芸四国会を退会

現代工芸四国会の指導者 石川 充 宏 (2006～ 現代工芸四国会会長)



恋する王妃Ⅱ (第49回日本現代工芸美術展内閣総理大臣賞)

- 1944年(昭19) 神奈川県小田原市に生まれる
- 1969年(昭44) 東京芸術大学工芸科卒業
- 1971年(昭46) 東京芸術大学大学院修了 鍛金専攻
- 1974年(昭49) 第13回日本現代工芸美術展現代工芸賞・読売新聞社賞
- 1975年(昭50) 全国県展選抜展 文部大臣賞
- 1978年(昭53) 第17回日本現代工芸美術展文部大臣賞
- 1980年(昭55) 第19回日本現代工芸美術展審査員 ('87,'89,'93,'97,'99,'04,'08,'11)
- 1993年(平 5) 第25回日展特選 ('98)
- 2001年(平13) 第33回日展審査員 ('05,'09)
- 2002年(平14) 現代工芸美術家協会理事、日展会員
- 2006年(平18) 現代工芸四国会会長
- 2008年(平20) 鍛金造形とその周辺ー石川充宏高知大学退任記念展ー
- 2010年(平22) 第49回日本現代工芸美術展内閣総理大臣賞、日展評議員

著書 新技法シリーズ「鍛金の実際」美術出版社(山下恒雄、安藤泉との共著)  
実践造形教育体系「金属の工作工芸」開隆堂出版(単著)

現在 高知大学名誉教授 放送大学高知学習センター所長・特任教授

## 現代工芸と四国の工芸

社団法人「現代工芸美術家協会」は、1961年（昭36）山崎覚太郎らによって我が国工芸美術の創作活動を奨励し、新人の育成と国際交流を行って、現代工芸美術の進展に寄与することを目的として設立された。

その主張は、「工芸の本義は作家の美的イリュージョンを基幹としていわゆる工芸素材を駆使し、その造型効果による独特の美の表現をなすもので、その制作形式の立体的たると平面的たるを問わず工芸美を追究することにある」である。この主張の背景には同じ日展の中であって、1955年（昭30）松田権六らによって社団法人「日本工芸会」が発足したことも影響があったと伝えられている。日本工芸会主催の日本伝統工芸展とは、一線を画す団体として結成されたのである。

「現代工芸美術家協会香川会」（後の四国会）は、その下部組織として同じ1961年に発足している。その母体となったのが、「工芸七彩会」であり、「うるみ会」である。

1947年（昭22）2月、明石朴景、窪田良次、加島信夫、眞子実也、三村比呂志により結成された「工芸七彩会」に坂根博、酒井敬之助、大島唯史が加わり、1949年（昭24）1月「うるみ会」が誕生した。「うるみ」とは、朱と黒の間の漆独特の色合いのこと。「新しい泉を掘ろうと集った同人達 泉は掘りはじめは汚い水も出るが次第に清い水がでる 明るい新しい工芸を創ろうそして一つ掘り終れば他のものを掘る」をスローガンに、従来の旧態依然とした漆芸のイメージを払拭し、時代に即した新しい感覚の漆工芸を目指し、意欲的な研究活動を展開した。

1956年（昭31）うるみ会は創立十周年を迎え、記念展を高松三越6階ホールで開催した。当時日展参事だった山崎覚太郎が序文を寄せ、「香川の工芸の立脚点を全日本的な、否世界的な視野にまで推し進めたのもまたうるみ会であった。恐らくこの会がなかったら香川の工芸はいまなお四国の一隅にその伝統の残滓からの脱却にのたうちもがいていたことだろうと思う。それほどうるみ会はよく戦い、よく創造した。私はその功績を無条件にほめたたえることに躊躇しない」と言葉をきわめて称賛した。

当時うるみ会会員は20人であり、研究会や展覧会の開催、パネル作品の創案など、若手工芸家たちによる個性を重視した意欲的な創作活動が展開され、会員のほとんどが日展入選の実績を積み重ね、日展特選受賞者を輩出するなどの成果を上げながら、戦後香川の漆芸界をリードし、さらに我が国工芸界のダークホースとして中央作家の注目を集めるまでに成長したのである。

現代工芸美術家協会が発足した翌年の1962年5月、日本橋高島屋で第1回日本現代工芸美術展が開催されているが、現代工芸香川会(県出身者を含む)からは、岡田章人、大西忠夫、藤井良雄、大須賀喬、石井輝夫、大須賀選、力丸卓司、鴨政雄、佐々木政、眞子実也、豊澤英之、松原春男が入選し、眞子実也が現代工芸賞を受賞している。明石朴景は病気療養中で出品できなかった。

1965年から1970年代の工芸界の特色としては、国際交流の緊密化があげられる。このころから欧米諸国において工芸的素材と技術を用いた現代美術、すなわち工芸の前衛化の傾向が大い



「うるみ会」の研究会

(提供 高松市美術館)



「現代工芸四国会」の研究会



に展開し、それとの接触によって刺激を受けた面がある。現代工芸美術家協会の先鋭的流れはいわゆる前衛的工芸との関連が深いとの指摘もある。

一方、工芸には絶えず用の問題が内在していて、純粋美術化が極度になると反発がおり、用への回帰がとなえられるとの現象があることは、明治以降の工芸の歴史でみられてきたことでもある。その現象は1978年（昭53）に起こり、多数の会員が離脱して、楠部弥弉らによって「日本新工芸家連盟」が結成される。それに呼応して大西忠夫らを中心に「日本新工芸家連盟香川会」が発足した。

分裂後の会員数は、現代工芸香川会は18人、新工芸家連盟香川会は28人であった。さらに日本新工芸家連盟を脱退した佐治賢使らによって「日工会」が結成され、大西忠夫を中心に「工芸美術四国会」が発足した。

四国の工芸界は、日本伝統工芸展と日展とに大きく二分され、日本工芸会四国支部(顧問は重要無形文化財保持者の磯井正美、太田儔の両氏)と日展系の現代工芸美術家協会四国会、日本新工芸家連盟四国会、日工会工芸美術四国会に系列化され現在に至っている。時風は前衛や実験は沈静化されているとも感じ取れる。

現代工芸四国会では、日本現代工芸美術展巡回展や現代工芸四国会展を開催している。巡回展は2003年まで毎年高松市で(社)現代工芸美術家協会と香川県との共催として開催されてきた。2006年から現代工芸四国会の主催として高知、松山、徳島、高松で開催され、四国を一巡したため以降は隔年実施となり、2011年は高知で、2013年は松山で開催される。巡回展では、協会理事長のトークショーや地元作家による列品解説、DVDの放映などで鑑賞者とのコミュニケーションによって現代工芸に対する理解や啓発に務めている。

現代工芸四国会展は、第1回から毎年(1967年のみ開催されなかった)高松三越で開催されてきた。小品の新作を中心に、日本現代工芸美術展出品のための試作的な作品もあつたり、会員が創意工夫して現代工芸作品をアピールしている。また一部日展や日本現代工芸美術展、県展の作品も展示している。

現在、現代工芸四国会会長は石川充宏(鍛金・高知県・日展評議員・現代工芸美術家協会理事)、であり、会員数は48人(2人休会)である。陶磁13人、染織7人、漆5人、人形・彫鍛・パッチワーク各4人などである。

1978年の分裂以前には20人を超える漆芸作家がいたが、隔世の感がある。地場産業の低迷の影響は免れないが、高知の珊瑚、徳島の藍染、愛媛の陶芸、香川の漆など四国の特徴を生かした現代工芸作品の制作は、今日においても私たちの課題でもある。また地方においては、常に伝統工芸と比較されるため、相互に技術を向上して切磋琢磨することが重要である。

私たちは常に現代を意識し、新しい工芸美を追究していくことは変わらないテーマでもある。そして新人の育成もさらに果たさなければならない。(敬称略)



「現代工芸四国会」研究会



日本現代工芸美術展高松展ギャラリートーク

## 審査員・受賞者（日本現代工芸美術展・現代工芸四国会関係）

年	回	審査員	受賞者
1962	1		眞子 実也（現代工芸賞）
1963	2	大西 忠夫	
1964	3	大西 忠夫	
1965	4	眞子 実也 岡田 章人	
1966	5	明石 朴景	
1967	6		力丸 卓司（現代工芸賞）
1968	7		
1969	8		
1970	9		
1971	10		
1972	11	明石 朴景	
1973	12	三村比呂志	
1974	13	大西 忠夫	石川 充宏（現代工芸賞）
1975	14	三村比呂志	
1976	15		
1977	16		窪田 恒（現代工芸奨励賞）
1978	17		石川 充宏（文部大臣賞）
1979	18	窪田 恒	
1980	19	明石 朴景 鴨 政雄	岩部 敬（現代工芸会員賞） 乃生須將己（現代工芸賞）
1981	20	佐々木 政 力丸 卓司	向井 一郎（現代工芸会員賞） 窪田 恒（現代工芸会員賞）
1982	21	窪田 恒	窪田 恒（NHK会長賞） 久本 元（現代工芸賞）
1983	22		
1984	23	力丸 卓司	久本 元（現代工芸大賞）
1985	24	向井 一郎	鴨 政雄（文部科学大臣賞） 村尾 彰（現代工芸会員賞） 渡辺登志子（現代工芸賞）
1986	25	窪田 恒	向井 一郎（NHK会長賞） 桑原 紀子（現代工芸賞）
1987	26	石川 充宏	新谷 守正（現代工芸賞）
1988	27		力丸 卓司（NHK会長賞）
1989	28	向井 一郎 石川 充宏	乃生須將己（現代工芸会員賞） 佐々木達郎（現代工芸賞）
1990	29	村尾 彰	久本 元（現代工芸会員賞） 後藤 健吉（現代工芸賞）
1991	30	向井 一郎	明石 朴景（文部科学大臣賞） 村尾 彰（現代工芸会長賞） 佐々木達郎（現代工芸会員賞） 渡辺登志子（現代工芸会員記念賞） 森元 数茂（現代工芸賞） 多智花佐代子（現代工芸記念賞） 森 絵里子（現代工芸記念賞）

年	回	審査員	受賞者
1992	31	岩部 敬	新谷 守正 (現代工芸会員賞) 高坂 教邦 (現代工芸賞)
1993	32	向井 一郎 石川 充宏	岡本 玲 (現代工芸賞)
1994	33	乃生須將己	森元 数茂 (現代工芸会員賞) 津田 浩二 (現代工芸賞)
1995	34	佐々木達郎 渡辺登志子	西 緑 (現代工芸賞)
1996	35	向井 一郎 村尾 彰 森元 数茂	多智花佐代子 (現代工芸会員賞) 木野戸啓子 (現代工芸賞)
1997	36	石川 充宏 力丸 卓司	後藤 健吉 (現代工芸会員賞) 太田美代子 (現代工芸賞)
1998	37	多智花佐代子	石川 充宏 (現代工芸理事長賞) 小西 潤 (現代工芸賞)
1999	38	石川 充宏	佐々木達郎 (東京都教育委員会賞) 香山 慶子 (現代工芸賞)
2000	39	向井 一郎 村尾 彰	木野戸啓子 (現代工芸本会員賞) 栗 典子 (現代工芸賞)
2001	40	力丸 卓司	津田 浩二 (現代工芸本会員賞) 西 緑 (現代工芸本会員記念賞) 山村 隆 (現代工芸賞)
2002	41	後藤 健吉	後藤 健吉 (東京都教育委員会賞) 山村 隆 (現代工芸本会員賞) 池田富士夫 (現代工芸賞)
2003	42	森元 数茂	森 賢一 (現代工芸本会員賞) 豊澤大志郎 (現代工芸賞)
2004	43	石川 充宏 木野戸啓子	小栗加代子 (現代工芸賞) 増尾 典子 (現代工芸賞)
2005	44	佐々木達郎	和田 毅 (現代工芸賞)
2006	45	津田 浩二	西 緑 (現代工芸本会員賞)
2007	46	西 緑	木野戸啓子 (NHK会長賞)
2008	47	石川 充宏	天野 和子 (現代工芸賞)
2009	48	木野戸啓子 後藤 健吉	轍 郁摩 (現代工芸賞)
2010	49	佐々木達郎	石川 充宏 (内閣総理大臣賞)
2011	50	石川 充宏 津田 浩二	西 緑 (NHK会長賞) 岡本 玲 (現代工芸本会員賞) 越 由子 (現代工芸記念賞) 瀧本 修 (現代工芸新人賞)
2012	51	多智花佐代子	多智花佐代子 (NHK会長賞) 鮎合 秀子 (現代工芸賞)

## 現代工芸美術家協会四国会 会員名簿

部門	会員名	住 所
染 織	太田麻須美	香川県高松市
人 形	太田美代子	香川県高松市
人 形	木野戸啓子	香川県高松市
人 形	串田すみ枝	香川県木田郡
漆	後藤 健吉	香川県高松市
彫 鍛	小西 潤	香川県高松市
漆	佐々木達郎	香川県さぬき市
染 織	津田 浩二	香川県坂出市
漆	東条 隆一	香川県高松市
漆	豊澤大志郎	香川県木田郡
革	中野登志絵	香川県木田郡
革	中村ノリコ	香川県高松市
漆	村尾 彰	香川県高松市
陶 磁	村尾 一哉	香川県高松市
彫 鍛	石川 充宏	高知県高知市
陶 磁	上村 宣道	高知県南国市
彫 鍛	岡本 玲	高知県高知市
サンゴ	鎌倉 通孝	高知県南国市
七 宝	島田 瞳	高知県高岡郡
陶 磁	田中 賢治	高知県高知市
染 織	西 緑	高知県吾川郡
陶 磁	橋村 一彦	高知県四万十市
陶 磁	橋村 るみ	高知県四万十市
七 宝	森 洋	高知県高知市
木	山本 浩司	高知県高知市
七 宝	轍 郁摩	高知県高知市

部 門	会員名	住 所
人 形	赤松 絵里	愛媛県東温市
革	安藤 求美	愛媛県西予市
陶 磁	池田富士夫	愛媛県伊予郡
彫 鍛	井上 文子	愛媛県新居浜市
陶 磁	坂本政エ門	愛媛県伊予郡
染 織	曾我部千鶴子	愛媛県新居浜市
硝 子	瀧本 修	愛媛県新居浜市
陶 磁	逸見 幸也	愛媛県松山市
竹	松田竹二郎	愛媛県伊予郡
陶 磁	森元 数茂	愛媛県伊予郡
陶 磁	山村 隆	愛媛県宇和島市
陶 磁	和田 毅	愛媛県東温市
マクラメ	鮎合 秀子	徳島県徳島市
パッチワーク	天野 和子	徳島県徳島市
パッチワーク	小栗加代子	徳島県海部郡
パッチワーク	越 由子	徳島県徳島市
染 織	多智花佐代子	徳島県徳島市
木	森 賢一	徳島県徳島市
染 織	山本 和子	徳島県徳島市
パッチワーク	龍木 秀子	徳島県徳島市

(休 会)

陶 磁	永田 公道	愛媛県松山市
染 織	永廣武都子	愛媛県松山市

## 現代工芸美術家協会四国会 役員 (2012年)

会 長	石 川 充 宏	
副 会 長	佐々木 達 郎	
常 任 委 員	村 尾 彰	
事 務 局 長	津 田 浩 二	
委 員		
庶 務 担 当	小 西 潤	津 田 浩 二
事 業 渉 外 担 当	後 藤 健 吉	村 尾 一 哉
	轍 郁 摩	
研 究 担 当	豊 澤 大志郎	岡 本 玲
	瀧 本 修	多智花 佐代子
財 務 担 当	中 村 ノリコ	森 洋
	赤 松 絵 里	龍 木 秀 子
地 区 委 員		
(香 川)	後 藤 健 吉	村 尾 一 哉
(愛 媛)	池 田 富士夫	和 田 毅
(高 知)	西 緑	岡 本 玲
(徳 島)	多智花 佐代子	森 賢 一
監 査	豊 澤 大志郎	小 西 潤



掲載資料提供 高知新聞社、四国新聞社、高松市美術館 住谷晃一郎氏

## 現代工芸四国会の五十年

現代工芸美術家協会四国会 発行

2012年11月1日